CORE Metadata, citation and similar papers at core.ac.uk

跡見学園女子大学文学部紀要　第37号　（2004年３月15日）

青年期の自己表明に関連する心理的要因についての探索的検討

―半構造化面接を用いて―

An Exploratory Study on Psychological Aspects of Self-Expression in Adolescents' Friendships by Semi-Structured interview.

柴　橋　祐　子

要　旨

青年期の適応をめぐる問題の中で大きな位置を占めるものに友人関係がある。友人に対し自分の意見をはっきり言えないことから，あるいは逆に自分の意見を一方的に主張してしまうことから，結果的に適切な友人関係を持てなかったり，友人との関係に悩みを持つ者も多い。友人関係の中で自分の気持ちや考えを率直に表明しあうことは，自分らしさを求める基本的な欲求であり，また相互理解のための基本となる。こうした自己表明のやりとりの能力の獲得は青年期の重要な発達課題の一つと言えるが，その心理的背景について検討されたものはみられない。青年にとってどのような感情や考えが友人との率直なやりとりを支える，もしくは妨げる要因となっているのであろうか。本稿ではその手がかりを得るために，面接調査を用いて探索的な検討を行った。

友人関係の中での自己表現のあり方を先行研究（柴橋，2001）に基づき，「自己表明」と「他者の表明を望む気持ち」の２つの側面から捉えて４つに類型化し，各類型に属する中学・高校生16名を対象に半構造化面接を行い，各被験者の特徴，および，各類型の特徴を分析した。４類型の特徴の比較から，次の５つの要因に違いがみられ，これらが自己表現のあり方と関連している可能性が見いだされた。(1)自己表明することに対しての価値感，(2)自己表明を受けとめてもらえた体験と友人への信頼感，(3)他者の気持ちへの配慮や内省的な視点，(4)熟慮性や攻撃性，(5)言語化することへの自信。本調査の結果から，スキルの問題や性格特性だけでなく，自己表明することへの価値感やこれまでの体験，内省的な視点などが大きな影響を及ぼしていることが示唆された。この点は，青年期の自己表現援助のあり方において十分考慮すべきことと言える。ただし，本研究は探索的なものであり，今後さらに，多くの被験者を対象に実証的な検討を重ね，心理的要因と自己表明との関連を明らかにしていく必要がある。

問題と目的

急激な身体の変化に始まる思春期，青年期は，不安や動揺を抱えながら，親からの自立へと向かい，「自分とは何か」を問う自己の確立という課題に直面する。また，抽象的，内省的な認知能力の発達によって他者の中での自分を意識し，理想を強く求めはじめる。こうした状況の中で，青年にとって友人は，心の支えであると同時に自分自身がどのような人間であるかを感じさせてくれる「自己証明という報酬」（Lea,1989）を与える。いわば，友人関係は自己を映し出してくれる鏡のようなものであり，その鏡に自己を映し出すには，自分の考えや感情を率直に表し，伝え合い，他者との類似点だけではなく，相違点をもお互いに共有していくことが必要と考えられる。

しかし，近年，友人関係が希薄化し，はっきりと自分の気持ちや考えを表明することによる軋轢を避けようとする子どもたちの姿が報告されている（磯貝，1992；福富，1997）。また，逆に自分の意見を一方的に主張してしまうことから，結果的に友人との関係を適切に保てない者も多くみられる。

友人との関係の中で自分の気持ちや考えを率直に表明し，相手の言葉にも耳を傾けようとすることは，自分らしさを求める基本的な欲求であり，相互理解のための基本となる（柴橋，1988）。また，ひきこもりや暴力行為など青年期の問題行動の背景にも「自己表現力の不足」が指摘されており（平石・桐山，1995），率直な自己表明のやりとりの能力の獲得は青年期の重要な発達課題の一つと言える。しかしながら，これまで，青年期の友人関係の中での自己表明に関する研究は少なく，とくにその心理的側面に関して多面的に検討されたものはみられない。なぜ，友人に自分の気持ちや考えを言えたり，言えなかったりするのであろうか。また逆に，友人の率直な発言を認め，受けとめることはどのような認知的，情緒的要因によって支えられているのであろうか。この点を明らかにすることは，青年期の自己表明の背景について理解を深め，自己表現力を高めるための援助においても重要な示唆をもたらすものと考えられる。

そこで，本研究ではその第一歩として，友人関係の中での自己表現のあり方にどのような心理的要因が関わっているのか，その手がかりを得ることを目的として，仮説の探索（林，1987）のための面接調査（半構造化面接）を行った。面接法は，対象者の語る言葉と同時に，しぐさや表情などに表れる非言語的情報を得ることができ，これらの情報を整理・統合し，ときに確認や補足を加えながら，対象者の内的世界をより深く理解していくことができる点で（中澤，2000；澤田・南，2001），探索的な研究の一つの有効な方法と考えられる。また，面接調査にあたって，本研究では類型的アプローチを用いる。具体的には，自分の気持ちや考えをどの程度率直に表明するかという「自己表明」と，友人が率直に自分の意見や考えを表明することをどの程度望むかという「他者の表明を望む気持ち」の２つの側面から自己表現のあり方を４つの類型に分け，各

類型の特徴を比較検討することによって，２側面を規定する心理的要因の仮説抽出を行う。

方　法

１．類型化と面接対象者の抽出

柴橋（2001）は，自分の気持ちや考えを率直に伝える「自己表明」，および，他者に率直に自分の気持ちや考えを言ってほしいと思うという「他者の表明を望む気持ち」の２つの側面に関する質問紙調査を721名の中学・高校生に実施し，各側面の発達的特徴について明らかにしている。本研究ではこの調査の被験者の中から次の方法で16名の面接対象者を抽出した。まず，２側面の各々の平均点（「自己表明」11.17点，「他者の表明を望む気持ち」13.08点）を基準として高群・低群を組み合わせ，被験者全体を４つの類型に分けた（Figure 1）。類型１（HH：両高群）は

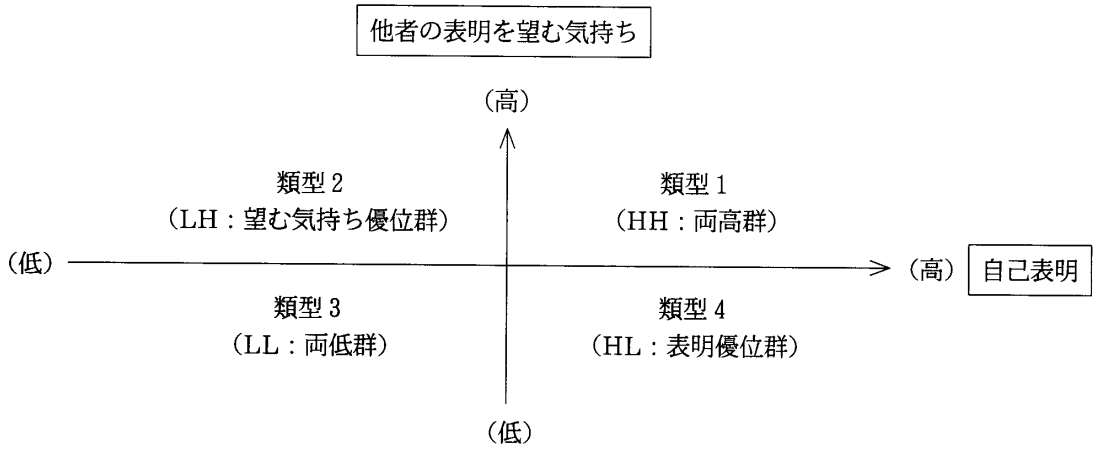

Figure 1「自己表現のあり方」の類型化

２側面の得点がともに平均よりも高い群，類型２（LH：望む気持ち優位群）は「自己表明」が低く，「他者の表明を望む気持ち」が高い群，類型３（LL：両低群）は２側面の得点がともに平均よりも低い群，そして，類型４（HL：表明優位群）は「自己表明」が高く，「他者の表明を望む気持ち」が低い群である。これらの４類型から５名ずつ，計20名に面接調査を依頼し，最終的に16名から承諾が得られた。被験者の内訳は類型１・類型３が各５名，類型２・類型４が各３名である。被験者の学年，性別，２側面の得点をTable 1に示す。

２．手続き

面接室において個別に20分～30分にわたる半構造化面接を行った。面接のはじめに，本調査が青年期の友人関係についての調査の一つであることを説明し，質問に対して自由に話してほしいこと，研究のための資料として利用するときには個人が特定できるような引用はしないことを伝えた。面接はすべて筆者が行い，なるべくリラックスして話せるように調査的面接の基本技法（中澤，2000）を踏まえて受容的な態度に心がけた。被験者全員に了解を得て録音した。

Table 1　面接対象者の一覧

	被験者	学年	性別	「自己表明」得点	「他者の表明を望む気持ち」得点
類型1	A	高2	男	12.89	13.90
(HH)	B	高2	男	12.20	14.90
	C	中2	女	12.63	14.20
	D	高2	女	11.35	15.75
	E	中2	男	12.29	14.95
類型2	F	中2	女	9.68	15.50
(LH)	G	高2	女	9.72	14.10
	H	高2	男	10.47	15.40
類型3	I	高2	女	8.53	10.15
(LL)	J	中2	男	9.96	10.65
	K	中2	男	8.18	11.35
	L	高2	男	10.35	11.65
	M	高2	女	10.25	11.55
類型4	N	中2	男	13.24	7.80
(HL	O	高2	男	11.50	10.75
	P	中2	男	11.90	10.70

3．質問内容

(1)前半

友人への自己表明の背景には，これまでの友人関係の中での葛藤体験や友人に求める理想，価値観など様々な思いが関わっていると考えられる。そこで，本研究では自己表明そのものについて尋ねるのではなく，友人関係に焦点をあてた質問を行うことにした。予備面接を重ねて質問項目を検討し，最終的に「あなたにとって大切な友だちとは」「友だちとのつきあいで大切にしていること」「自分の気持ちがうまく言えなくてつらかったりしたときのエピソード」「友だちと葛藤があったときの対処の仕方」の4つを質問項目とした（以下，「自由面接」と記す）。Table 2に自由面接の内容を示す。なお，面接では被験者の緊張をほぐし，また被験者の特徴をより理解するために，「面接を頼まれたときの気持ち」など補足的な質問も加えた。

Table 2　自由面接の質問内容

まず初めに，面接を頼まれたときどんな気持ちがしましたか。（補助項目）
・あなたにとって大切な友だちは，どんな人ですか。
・友だちとのつきあいで，あなたが大切にしていることはどんなことですか。
・友だちに自分の気持ちが言えなくてつらかったり，悔しかったりしたことがありますか。
また，友だちに言い過ぎたりして失敗したり気まずくなったりしたことはありますか。
もしあれば，そのときのエピソードを聞かせ下さい。
・たとえ仲のよい友だち同士であっても意見が一致しなかったり，葛藤があったり，お互いに怒りを感じたりすることがあると思いますが，そのときあなたはどのように対処しましたか。

(2)後半

友人との具体的な葛藤場面を提示し，登場人物の気持ちや，自分がその人であったらどのように答えるかなどの質問を行った（以下「場面面接」と記す）。Table 3 に場面面接の内容を示す。この場面は，Adalbjarnardottir & Selman（1989）の対人交渉方略の調査で用いられた場面に修正を加えたもので，〈自分では文化祭の仕事をきちんとやっていると思っていたが，一緒に作業を進めているクラスメートから「ちゃんと仕事をしろよ」と言われたとき〉という設定である。このような場面に対する応答を通して，他者の言葉に対する受けとめ方や自己表明のしかた，およびその背景にある情緒的，認知的特徴を検討することが出来ると考えられる。

さらに，付加的情報を得るために，担任教師２名（中学２年，高校２年の担任各１名）にも生徒の様子について尋ねた（以下「教師面接」と記す）。なお，面接の被験者は，原則としてこの２名の担任のクラスから選んだが，人数を補うために他のクラスの生徒にも協力を仰いだため，16名のうち４名については教師面接を行うことができなかった。

Table 3　場面面接の内容

〈場面〉
Ａは，クラスで分担した文化祭の仕事を自分ではまじめにやっていると思っていました。
ある日，一緒に仕事をしている友だちのＣから，次のように言われました。
「ちゃんと仕事をやれよ。」

〈質問内容〉
1．このときＡはどんな気持ちだと思いますか。
2．Ｃはどんな人だと想像しますか。
3．Ａはどう言ったらいいと思いますか。または，どうしたらいいと思いますか。
他の言い方や行動はありますか。
あなたがＡだったらそれらのうちどれを選びますか。
4．この後，二人の関係はどうなると思いますか。

結　果

以下では，各類型ごとに各被験者の面接の概略を示し，面接での印象も含めてその特徴について記す。具体的には以下の順で整理した。

・半構造化面接で語られた内容の抜粋：「自由面接」，「場面面接」

・各被験者の特徴：「自由面接」，「場面面接」，「教師面接」

また，KJ 法を参考に，各類型ごとの特徴を抽出し，箇条書きで記した。

(1)　類型１（HH群）

「自己表明」，「他者の表明を望む気持ち」がともに上位群，被験者は，Ａ～Ｅの５名。

１）被験者Ａの特徴（高２男子）

〈自由面接〉
困ったときに相談できる友だちが一番大切。お互いに信頼できて裏切らないこと，いつも話をすることが友だちでいるために大事だと思う。意見が合わないことはよくあるけど，その日は言い合っても次の日にはもう覚えてない。あまり根に持たずに，喧嘩をしても次の日には忘れてる。
自分の気持ちが言えなかったり，言い過ぎたと思うようなことは特にない。
〈場面面接〉
本当にこの人はちゃんと仕事をしているんですか？していないんですか？
自分はしていると思っていたら，いちいち言わないでほしいって思っただろう。いやだなと思ってる。
この相手の人は責任感があってリーダーシップのとれる人だと思う。自分がちゃんとやってると思うなら，何も言わずに続ければいい。僕だったら注意されたときは，とりあえず従う。このことが2人の関係で後に残ることはない。

（自由面接）質問に対してすぐに答えるのではなく，しばらく考えてからはっきりとした言葉で話をしていた。友だちとは「いつも話をすること」を大切にし，「自分の気持ちが言えなかったり，言い過ぎたと思うようなことはない」「意見が合わないことはよくあるけど，その日は言い合っても次の日にはもう覚えていない」と語っていた。自分の気持ちや考えを表すことをためらわず，ぶつかっても根に持たないあっさりとした様子がうかがわれた。
（場面面接）場面についての応答もはっきりしていて端的であった。まず，「本当にこの人はちゃんと仕事をしているんですか？していないんですか？」と面接者に状況を確認し，「自分がちゃんとやってると思うなら，何も言わずに続ければいい。僕だったら注意されたときは，とりあえず従う」と話していた。感情的にならずに相手の言葉を注意として受けとり，自分の仕事を振り返る内省的な視点がみられる。また，相手に対しても「責任感があってリーダーシップの取れる人」と肯定的な捉え方をしていた。
（教師面接）担任はAについて「決して目立ちたがりやではないが，こういうことをやらなければっていうことになると自分で考えて取り組む。友だち関係の中でも，出過ぎず，引き過ぎずっていう感じの子」と語っていた。適度に他者との関係を配慮しながら，しっかりと自分の考えを持ち，それを表明できる様子は面接での印象とかなり一致していた。

2）被験者Bの特徴（高2男子）

〈自由面接〉
大切な友だちは，僕のことをちゃんと分かってくれて，僕もその人のことを分かっている人。
友だちとしてやっていく上で大切なのは，あまり意識しないで悪いことは悪いと忠告できて，それでもよそよそしくしないで協力できること。喧嘩しても仲直りできるような関係でいることだと思う。
友だちとは一緒に話しているときが一番楽しい。
これまで大体話してきたし，言えなくて悔しかったとかいうことはあまりない。言い過ぎたことはあっ

たのかもしれないけど僕は気づいていない。前のことは忘れちゃう。友だちと僕は考え方も好きなものも一緒っていうわけではない。一瞬むかついたりというのはあるけど「言われてみればそうかな」という感じですぐに収まる。あまり怒りは長く続かない。
〈場面面接〉
自分はちゃんとやってるのにやっていないと言われたら，一瞬腹が立つと思う。よく知らない人だったら「何だこのやろー」と思うかもしれないけど，これから付き合っていくと変わるかもしれないから，まだどういう人かは分からない。僕なら，やっぱりもう一回，自分のしていることを見直してみる。実際，自分がやってなかったとしたら相手の意見を聞く。もし自分が精一杯やってるとしたら「これ以上できない」とはっきり言う。多分この後かえって２人は仲良くなると思う。そういうことが結構これまでもあったし，そういう相手とはうまくやってきたから。

（自由面接）短い言葉，落ちついた口調で話していた。友人との葛藤については，「言われてみればそうかなっていう感じですぐおさまる」と話し，感情的にならずに，素直に相手の言葉を受けとめる様子がうかがわれた。友人との関係で大切なこととして，「悪いことは悪いと忠告できること」「喧嘩をしても仲直りできるような関係であること」と語り，対立を怖れずに自分の気持ちを率直に伝え合える関係を望んでいることが推察された。
（場面面接）「一瞬腹が立つ」と答えながらも，「もう一回自分のやってることを見直してみる」という内省的な視点がみられた。また，そのように冷静に自分を振り返った上で，相手の意見が正しいと思えば相手の意見を聞き，そう思えない場合は，自分の限界を率直に伝えると答えている。こうした応答から，自分を省みる余裕と素直さが感じられた。
（教師面接）担任はＢについて，「性格が非常に素直な子で，思ったことは口に出して言える子」「勉強なんかでも自分で決めてやっていくタイプ」「リーダーがいなくてもそれぞれの個性で成り立っているグループの中で友だち付き合いをしている」と話していた。自分をしっかり持って，個性を大切にした付き合い方をしている様子がうかがわれた。

３）被験者Ｃの特徴（中２女子）

〈自由面接〉
友だちには自分の気持ちを伝えること，相手にきちんと言うのが大切だと思っていた。
今はそれだけではなくて，相手が傷つかないような言い方で伝えることが大切だと思う。「こうした方がいいよ」みたいな感じで教えてあげることが大切だと思う。
友だちと全然喧嘩をしないというより，時々喧嘩をしてお互いを見つけ合うことが大事だと思う。
友だちが他の子と仲良くしているのを見て，何か私は寂しくなった。でもその気持を言葉でうまく伝えることができなかったことがある。何週間かしてから「やきもち妬いてごめんね」って手紙に書いたらその子も「ごめんね」って言ってくれた。友だちの嫌なところが見えたとき，言っても大丈夫って思う人に「性格悪いよー」みたいなことを言って泣かせてしまったことがある。その子はそれから話してくれなかったけど，ずっと考えて結局手紙を書いて謝った。私は，無視されたり，口をきいてもらえな

かったりしても「絶対解決する」という気持ちがすごくある。
〈場面面接〉
自分ではきちんとやってるのに何でそんなふうに言うんだろうって，腹が立つと思う。
もし私だったら「きちんとやってるよ」と言う。そうしたら相手は「あーそう」と引き下がってくれると思う。相手がやってない人ならば「あなたの方こそちゃんとやってよ」と言うと思う。

（自由面接）親友との間に第3者が入ってきたときの寂しさをうまく言葉で表せなかったこと，相手に注意したために話をしてもらえなくなったことなど，友だちとの様々なトラブルを率直に語っていた。そうした経験の中から，「友だちには自分の気持ちを伝えること，相手にきちんと言うのが大切だと思っていた。今はそれだけではなくて，相手が傷つかないような言い方で伝えることが大切だと思う」という考えを学んでいったように思われた。また，「時々喧嘩をしても，お互いを見つけ合うことが大事だと思う」と言い，自分の気持ちや考えを率直に伝え，分かり合いたいという思いを持っていることがうかがわれた。
（場面面接）「どうして？」と，相手の気持ちが理解できないという驚きの言葉がまず初めに発せられた。そして，相手に対しては，「きちんとやってるよって言う」と答え，あっさりと自分の考え，思ったことを言葉にしていた。
（教師面接）なし
4）被験者D（高2女子）

〈自由面接〉
私は何でも相談できる友だちがいい。嫌なことは嫌って何でも言える人。何でも「はいはい」と言うのではなく，自分の意見をはっきり言って，それでもうまくやっていける人を親友だと思う。
私は友だちからばんばん言われることが多い。「それは言わないで欲しかった」って言うこともあるけど，大体は言ってくれたほうがいい。何も言わないと何を考えているのか分からないし，言ってくれたほうが分かっていいと思う。何も意見を言わない子がいるけど，本当はいやなんじゃないかってそういう子には気を使う。
〈場面面接〉
「どうして？」「ちゃんとやってるのに」って，ちょっと腹立たしい気持ちだと思う。
この人は「○○長」みたいに，しきっている感じの人だと思う。
私だったら「ちゃんとやってるよ」って言う。それか「私なりにちゃんとやってるし，そんなこと言わないで欲しい」って言うと思う。この2人がもともと仲のいい友だちだったら関係は今までと変わらないと思う。そうでない相手だったら，多分離れていく。

（自由面接）初対面の面接者に対しても物怖じすることなく，面接について「わくわくした。楽しみだった」と笑顔で話していた。友人関係で大切にしていることについては，「いやなことはいやって何でも言える」「自分の意見をはっきり言って，それでもうまくやってける人を親友だ

と思ってる」と語り，率直に意見を言い合える友人関係を望んでいる様子がうかがわれた。

友人との葛藤については，「けっこう相手からばんばんと言われることが多い」が，「言ってくれた方がいい」「何も言わないと何を考えているのかわからないから」と話し，こうした相手のことを分かりたいという気持ちが他者の表明を望む気持ちの背景にあることが察せられた。

（場面面接）注意されたことについては，「えーどうして？」「なんでー」と，怒りではなく，驚きとしてまず自分の感情を表現していた。そして，相手に対して「ちゃんとやってるよ」と言うと答え，自分の思ったことをそのままはっきりと伝えていた。

（教師面接）担任はDについて「バランスのいい学校生活を送っている」「勉強も友だちづきあいもうまくやっていて明るい子」と話していた。相手を気遣う気持ちを持ち，迷いながらも友人とのほどよい距離を自分なりに探している様子がうかがわれた。

5）被験者Eの特徴（中2男子）

〈自由面接〉
大切な友だちはやっぱり話す人。自分も話せて向こうも話してきてくれる人。
友だちとやっていく時は，小さいことは気にしないことが大切だと思う。
友だちとうまく行かなかったことは色々あったけどもう忘れた。僕は本当にすぐ忘れる。色々あっても，話してみたらいい奴だったりする。意見が合わないときは，相手が折れてくれてもくれなくても，大体自分がしたいようにする。こんがらがって面倒くさいときは，相手に合わせることもある。
〈場面面接〉
やっぱり腹が立つんじゃないかな。今までしてきたことを全て否定されたみたいで。
この人はちょっと怒りっぽい人っていうか，自分勝手な人だと思う。僕だったら大体ちょっとむかっときても「やってるよ」って言うと思う。
2人の関係は少し疎遠になる。もし，相手のやり方でうまくいけば引け目を感じると思う。

（自由面接）友だちとの関係については「小さいことは気にしないことが大事だと思う」「ぼくは色々あってもすぐ忘れる」という言葉が短い返答の中ではっきりと返ってきた。さばさばっとした印象で，あまり小さなことに囚われない様子であった。友だちとの葛藤については，「たまにはこんがらがって面倒くさいから相手に合わせたりもするが，だいたい自分がしたいようにする」と話し，適度に引きながらも，他者と一緒であることに固執せず，自分の判断に基づいて行動する自信をもっているように感じられた。

（場面面接）相手に対しては，「やっぱり腹が立つんじゃないかな」と述べ，その理由として「自分のしてきたことをすべて否定されたみたいで」と付け加えていた。それでも激しく言い返すのではなく，「僕だったら，だいたいちょっとむかっときても，ちゃんとやってるよと言う」と答え，きちんと自分の気持ちを言葉で伝える応答がみられた。

（教師面接）なし

類型１の特徴

以上，被験者Ａ～Ｅの面接内容から，類型１の特徴として次の点があげられる。

・自分の気持ちや考えを伝え，話し合える友人関係を大切にしている。
・友だちと意見が違うことを否定的に捉えていない。
・友だちと対立や葛藤があっても仲直りし，分かりあえた経験を持っている。
・友だちとの葛藤や対立にいつまでもこだわらずに，あっさりとしている。
・お互いに深く，分かりあいたいという思いを持っている。

(2)類型２（LH群）

「自己表明」が下位群，「他者の表明を望む気持ち」上位群，被験者は，Ｆ～Ｈの３名。

１）被験者Ｆの特徴（中１女子）

〈自由面接〉
お世辞なんか入れなくて，自分がはっきりと本心で言える友だちがいい。でも，「本心を言う」といっても言えないことがある。時間がかかっても言った方がいいと思う時は言う。２，３週間かかったこともある。本心の言える友だちは，自分と同じような人間だからぶつかったりすることはあまりない。でも，普通のクラスの人だと自分の考えが言えないことが多い。
自分と相手の意見が違うときは，どちらを選べばこのことが有利に進むかを考える。もし，自分の方がうまくいくっていう自信がある時は，友だちにそうはっきり言ってそうしてもらう。相手もわかってくれると思う。もし相手の言うことの方が正しいと思ったらそうしようと思う。
〈場面面接〉
まじめにやっているのに，何故そういうふうに言われるのか不思議な気持ち。少しは腹が立つ。
その人がちゃんとやっている人なら，そうなのかなって思って「うん」って言って仕事をやる。
ちゃんとやってない人だったら，「自分がちゃんとやってよ」って言うと思う。はっきり言えば相手はわかってくれると思うし，おとなしくて言えなければうまくいかないと思う。

（自由面接）質問に対して少し間を置き，自分の思いを整理してから話す様子が印象的であった。大切な友だちとしては，「自分がはっきりとお世辞なんか入れなくて，本心で言える友だちがいい」と話していた。そして，そうありたいと思ってもなかなか言えずに，時間がかかったこと，クラスのふつうの友だちに対しては，自分の考えが言えないことが多いことが語られた。また，自分と相手との意見が違ったときは，「どっちを選べばこのことが有利にすすむかっていうことを考える」と述べ，自分の意見を通すか相手の意見を通すかは，感情ではなく，状況によって選択していくという冷静さが見られた。

（場面面接）最も印象的だったことは，「相手がちゃんとやっている人かどうか」によって，自分の応答が異なると述べていたことである。もし，相手が注意してくるだけのことをやっている

人ならば従い，そうでない場合は「自分こそちゃんとやって」と言い返すとしていた。自分なりの冷静な判断基準を持っていると思われた。

（教師面接）担任はFについて「自分なりの目的，目標をしっかり持っている子」「かなり芯の強い子」と話していた。こうした特徴は，面接における印象ともかなり近く，感情に流されず，よく考えて自分の納得できる行動をしようとする姿がうかがわれた。

2）被験者Gの特徴（高2女子）

〈自由面接〉
自分の気持ちを理解してくれる人が私にとって大切な友だち。私も相手の気持ちがわかるように私にかくしごとをしないでいてくれる人がいい。性格がさっぱりとしていて，2人でべったりっているような感じじゃない人がいい。
考えが違ったり嫌なことがあった時は，はっきり言うときもあるし，言わないときもある。どうしても言いたいときは言うほうだと思う。
〈場面面接〉
ちゃんとやってるのに何でわかってくれないんだろうって，少しはむかっとすると思う。
この人は多分，文化祭とかにまじめに取り組む人だと思う。この人から見たらちゃんとやってないって見えるのかなって思う。私だったら，ちょっとむかっときても「ちゃんとやってるよ」って柔らかく言う。でも，あまり仲のいい人でなければ，「はーい」って言う。もともと仲のいい人だったら，2人の関係は変わらない。そうでなければ「ちょっとあの人いやー」みたいになると思う。

（自由面接）言葉を選びながら静かな口調で，「自分の気持ちを理解してくれる人が私にとって大切な友だち」「相手の気持ちが分かるように隠し事をしないでいてくれる人がいい」と話していた。「性格がさっぱりとしていて，2人でべたっていう感じじゃない人がいい」と語り，あまりお互いに踏み込まずに相手の気持ちを配慮し合うような関係を望んでいることが察せられた。

また，友だちと意見が合わなかったときは，「どうしても言いたいことがあるときは，言う方だと思う。多分」と，間を置きながら話していた。反射的にではなく，熟慮して，大事なことはきちんと言う強さを内にもっているように思われた。

（場面面接）相手に対して「文化祭とかにまじめに取り組む人だと思う」と述べ，批判的ではなく，肯定的でやや距離を置いた見方をしていた。そして，「この人から見たらちゃんとやってないって見えるのかもしれない」という内省的な視点が語られた。「ちょっとむかっときても，ちゃんとやってるよと柔らかく言う」という言葉からは，感情を制御し，冷静に応答する様子がうかがわれた。また，被験者Fと同様に相手との関係によって応答が異なる様子が見受けられた。

（教師面接）担任はGについて，「自分のことをちゃんと見ていて自分の生活をきちんとしようとする雰囲気がある子」と述べ，「あまり外向けの発言とか，表に立って発言をするということはないが，意見を聞かれるとかなりしっかりした自分の意見を持っている」と見ていた。こうし

た評価は，控えめで，冷静に自分の考えを言う面接での印象と一致していた。また，「自分の世界をきちんと持っていて，相手を受け入れる心の広さがある」と語られ，他者を受けとめる気持ちを持っている様子がうかがわれた。

3）被験者Hの特徴（高2男子）

〈自由面接〉
大事な友だちは　僕にとって力になってくれる人。
相手に負担をかけたらいけないと思う。なるべく相手に負担をかけないように気をつけている。
でも，相手が負担をかけてきても許してやることが大事だし，相手も僕のことを許してくれる。
僕は友だちに合わせて無理することがいっぱいある。そういうことにすごくなりやすい。特に中学の時は，相手のペースに乗せられて，「こりゃしまった」って思うことがよくあった。反対に言い過ぎたことも結構ある。相手を傷つけたと思っても僕は謝ることができない。友だちに対して「ごめん」とか「おはよう」とか言えない。
考え方や意見が違う時は，仲のいい友だちとはお互いにそのまま自分の意見を通しておしまい。全然違う考え方の友だちが多い。でも，合うところはぴったり合う。違っていてもいいと思う。
僕は平和主義者だから絶対喧嘩はしません。
〈場面面接〉
「こいつおれのこと何も知らないで！」って感じたと思う。こんなことを言ってくる人は，何にも考えてない人だと思う。仲のいい友だちだったら，何も言わないか，「ちゃんとやってるよって」軽く言う。仲がいい友だちでない場合はめちゃくちゃ言い返す。2人の関係はあまり変わらない。仲がいいのはいいまま，そうじゃなければそうじゃないまま。

（自由面接）友だちとの間で大切だと思うことについては，「相手に負担をかけたらいけないと思ってる」「負担をかけたらいけないけど相手が負担をかけてきても許してやることが大事だと思う」と即座に答え，相手のことを気遣う気持ちが見られた。また，お互いに考え方や意見が違っていても「ぴったり合うところはもうぴったり」という友人を持ち，そうした価値観の近い友人と固い信頼関係を築いているようであった。その一方で，うまく自分の気持ちを表せず，「友だちに合わせて無理をすることがいっぱい」あり，相手のペースに乗せられて「しまった」と思うことがよくあると話していた。きちんと断ることの必要性を感じながらもなかなかうまく言えない自分を少し照れながら反省していた。また，「平和主義者だから喧嘩は絶対しません」と言い，自分の理想とする考えを強く持っているようであった。

（場面面接）相手が仲のいい友だちのときは何も言わないか，軽く「やってるよ」と言って自分の仕事の結果を見せ，そうでないときは「めちゃくちゃ言い返す」と答えている。相手との関係によって受け取り方や表明する言葉が変わることが特徴と言える。

（教師面接）担任はHについて「自分なりの考えを広く持っていて，友だち関係というのもかなり親しいグループがある。誰とでもっていう方ではない。字を書いたりするとこの子はすごくの

びやかなしっかりした字を書くことが印象に残ってる」と語っていた。自分の世界を大切にし，自分の価値観と合う仲間と強い絆を築いている様子がうかがわれた。

類型２の特徴

以上，被験者Ｆ～Ｈの面接結果から，類型２の特徴として次の点があげられる。

・状況を冷静に判断した上で，行動を選択するという熟慮性がみられる。

・価値観や性格がぴったりと合う友だちに対しては本心を言い合える。

・普通の友だちに対しては，自分の気持ちが言えなかったり，逆に言い過ぎてしまうことがあり，相手との関係によって自己表現のあり方が異なる様子が見られる。

⑶類型３（LL群）

「自己表明」,「他者の表明を望む気持ち」共に下位群，被験者は，Ｉ～Ｍの５名。

１）被験者Ｉの特徴（高２女子）

〈自由面接〉
私にいやなことをする人はいや。私に気を使ってくれて楽しい人，それで私が気を使わなくていい人。友だちでいるために，ひどい事を言わないように気を付けているけど言ってしまうことはある。
中学生の時から，嫌みっぽい事を何回も言われても言い返せなくて，言われてそのままというのがよくあった。高校になっても，言い返せなくて，むかついて終わったことがたくさんある。友だちと自分の欲求が違うときは，やっぱり自分の方を抑えることが多いかな。
〈場面面接〉
言われた人は，むかついたと思う。やっぱりきちんとやってるのに突っ込まれたら腹が立つと思う。この相手はちょっとまじめなタイプで，結構リーダー格の人だと思う。「やってるよ。あなたもやれば」ってこの人は言うと思う。自分だったら「やってるよ」って言うかな。

（自由面接）面接を頼まれたときの気持ちを尋ねると，「私は，なんかちょっと変わってるのかなと思った」と答えていたのが印象的であった。大切な友だちは「私に気を使ってくれて，私が気を使わなくていい人」と話し，友だちでいるためには「ひどいことを言わないように気を付ける」ことをあげていた。気を使う使わないという次元で友人関係が捉えられ，何よりも傷つけられない関係を求めているように感じられた。友人との葛藤については，「言い返せなかった。本当にむかついて終わった」と語り，自己表明できない不満を強くもっていることが感じられた。面接の中で何度か「言い返せない」という言葉が使われ，自分の気持ちを言うことが相手とコミュニケートするためではなく，相手に言い返すこととして捉えられている様子がうかがわれた。

（場面面接）「むかつく」という言葉がまず初めに語られた。自由面接でも何回か使われていたこの言葉には，相手に直接向かえずに，内に籠もったもやもやした怒りが感じられる。また，「まじめなタイプで結構リーダー格」である相手に「突っ込まれたら」と表現し，相手に圧倒さ

れて萎縮してしまう様子がうかがわれた。そして，怒りや不満をもちながらも，もめごとを起こさないように自分の気持ちを抑えた応答をしていた。

（教師面接）担任はＩについて「友だちから見るとちょっと変わっているというふうに見られる」「言動が突拍子もなく，普通なら言わないだろうと思うようなことをふぃっと言ってしまう」と語られた。このような行き違いの中で，自分の気持ちがわかってもらえず，他者の批判を気にして率直に言葉を発することが妨げられているのではないかと察せられた。

２）被験者Ｊの特徴（中２男子）

〈自由面接〉
友だちは優しくて親切な人がいい。趣味が合うことが友だちでいるのに大事。明るい同士で遊んでいるし，暗い人も時々入れたりしてる。からかいすぎて相手を怒らせたりしたことがあるけど冗談だから別に構わない。友だちと意見が違うことはあまりない。
〈場面面接〉
僕だったら「やかましいな，自分だってやれよ。ばか」って言う。自分がさぼりながらやっていて，Ａが他の人に誉められたからむかついて文句を言ってきた人。僕だったら「ちゃんとやってるよ」って言う。この二人は対立していく。崩れていく。もし，相手がきつく言い過ぎたと言って引き下がったら，もしかしたらうまくいくもしれない。このままじゃ許さない。

（自由面接）幼さが残り，やんちゃで可愛い中学生という印象であった。友だちは「えーと，優しくて親切な人がいい」「明るい同士で遊んでるし，暗い者も時々入れてやってるし」と，時折笑いながら冗談っぽく話していた。クラスで委員長を決めるときに，「じゃんけん」や「にらめっこで決めようと言った」といい，仲間と一緒に面白可笑しく遊ぶことが何より楽しいといった様子であった。友人と意見を言い合い，わかり合いたいとか，価値観が合うかどうかといったことは，今の彼にとってそれほど重要な意味を持っていないように感じられた。

（場面面接）即座に「やかましいな。自分だってやれよ。ばか」という攻撃的な言葉が語られた。どうしてそんなことを言われるのだろうといった内省的な言葉は語られなかった。また，相手については，「自分がさぼりながらやっていて，ちょっとＡが他の人に誉められたから，むかついて文句を言ってきた人」といい，かなり否定的な受けとめ方をしていたのが特徴的であった。しかし，言葉そのものの攻撃性とは裏腹に表情や口調は無邪気で，陰湿な感じはなかった。また，自分ならどう言うかという質問には，「ちゃんとやってるよ」という感情を統制した応答に言い換えており，適切なレパートリーは持っていた。この後の二人の関係については，「対立する」「崩れていく」と言い，相手が引き下がらなかったら「このままじゃ許さない」と強い口調で語っていた。言葉がやや攻撃的で，状況を考えずに反射的に応答してしまう様子がうかがわれた。

3）被験者Kの特徴（中2男子）

〈自由面接〉
友だちは面白かったら何でもいい。面白くてあんまり勉強ができない人がいい。
友だちでいるためには傷つけないことが大事だと思う。余計なことに口を出さないこと。
一緒にいて楽しいのは仲間と同じことをしたり，同じ目的を持って何かする時。
言えなくて後悔したっていうのはあまりない。言い過ぎたりしたことはよくある。
ちょっと前，授業中に「こいつ寝てるぞ」って言われて，その時，腹が立って殴る蹴るになった。意見の違いっていうのはない。そもそも意見はないっていう感じ。
仲間だったら言い合うけど，普通のクラスの人は相手にしないで無視する。
言い合う仲間っていうのは自分の欠点を見抜いてくれる人たち。
〈場面面接〉
「注意する暇があったら自分でやれよ」って思う。
Cは，自分が見えてなくて他ばっかり見ている人。自分だったら無視すると思う。
文化祭がうまくいけば和解すると思うけど，このいざこざでやる気を無くしたらずっとだめ。

（自由面接）髪型が決まっていて，おしゃれな雰囲気があり，少しおどけた話し方をしていた。「友だちは面白くて，あんまり勉強ができない人がいい」，「傷つけないことが大事」と言い，バンドの仲間と一緒に練習している時が一番楽しいと話していた。そういう仲間に対しては，「自分を見抜いてくれる人」という肯定的な見方をしていたが，仲間以外に対しては，かっとなって殴ってしまったり，「相手にしないで無視する」など，攻撃的，拒否的な感情を持っていることがうかがわれた。自分が仲間だと思える人には素直に自分を表し，また相手の言葉にも耳を傾けようとはするが，そうでない相手に対しては不信感を持ち，心を閉ざしているように思われた。
（場面面接）場面を見た途端に，「注意する暇があったら自分でやれよー」という言葉が反射的に返され，その時の感情や状況については全く語られなかった。また，どう応答するかという問いには，「自分だったら無視する」と答えていた。行動表出だけで判断すれば抑制的といえるが，類型1（HH）でみられたような，納得してとりあえず従うというのではなく，敵意を持ちながら相手とは関わらない態度と言えるであろう。全体的に言葉が単発的で，なぜそう思うかといった説明はなく，言葉で相手に自分の気持ちを伝えるスキルがやや欠けているように思われた。
（教師面接）担任は「いい意味でも悪い意味でもヒーロー」と話し，クラスで影響力を持っている1人としてKを見ていた。「何か気にくわないことがあったら一言も話しません。まわりを巻き込むというか」といった言葉からは，無視する，黙り込むといった自己表現のあり方がうかがわれた。また，複雑な家庭環境も語られ，自分の考えや気持ちを真剣に受けとめてもらえた体験の少なさや大人への不信感が感じられた。

4）被験者Lの特徴（高2男子）

〈自由面接〉
親しい友だちはあんまりいない。学校の中で一緒にいる人はいるけど，学校の外では全くつき合わない。どんな人でも向こうが友だちでいてくれるならいい。自分からは特にこういう人というのはない。自分の考えはわりと言うけど，言い過ぎた時は相手の機嫌が直るまで待つ。言い過ぎたと思っても謝ったりはしない。笑ってごまかす。
〈場面面接〉
心外だなって思う。この人は自分が思ったとおりに人が動かないと怠けているって思っちゃう人。
A（主人公）は，「ちゃんとやってるよ」って言って自分のやってるところを見せると思う。
でも，僕だったら心の中ではうるさい奴だなって思っても，はっきり言ったらややこしくなるから，「はいはい」って言って済ます。元々仲がよかった人なら多少ひびが入っても仲直りすると思う。そうじゃなかったら喧嘩になる。

（自由面接）小さな声でぼそぼそっと，時折「はー」と言いながらあまり答えたくなさそうに話していた。友だちのことについて聞きたいと言うと「親しい友だちはあんまりいない。学校の外では全くつきあわない」とやや冷めた口調で答えていた。どんな友だちが欲しいかという問いに対しては，「どんな人でもいい。むこうが友だちでいてくれたら」と言い，少し寂しげな様子が感じられた。友だちとの葛藤については「機嫌が直るのを待って笑ってごまかす。謝ったりはしない」と述べ，あまり人と交わりを持てず，また持とうという気持ちも少ないように思われた。
（場面面接）「心外」という言葉がぽつりと語られた。腹が立つとか驚くといったストレートな不満や情緒的な動揺は表明されず，少し距離を置いて冷ややかに表現した言葉のように感じられた。さらに，「A（主人公）はちゃんとやってるよと言うと思う」としながらも，「自分だったら，はいはいって言って済ます」と述べている。「心の中ではうるさい奴だって思ってる」という言葉が示すように拒否的な感情を持ちながらも，「ややこしくなる」ことを避けるために自分の気持ちを抑えた応答と言える。相手に従うという点では類型1（HH群）や類型2（LH群）でみられた応答とよく似ているが，感情的にはかなり異なることがうかがわれた。
（教師面接）教師はLについて「個性的な子」「割合ナイーブで，自分の世界を持っていて，それに触れられたくないっていうところがある」と語っていた。他者とは関わろうとはせず，外に対しては心を閉ざしているように感じられ，それは面接での印象とかなり近いものであった。
5）被験者Mの特徴（高2女子）

〈自由面接〉
大事な友だちはやっぱり教養のある人。自分の意見を持ってる人がいい。友だちに限らず，他人の立場になって考えられることが人間として大事だろうと思う。
友だちとつき合っていく時，ちょくちょく後悔したり迷ったりする。もともとは結構はっきり言う方だったけど，今は友だちを誘ったりするのも自分の価値観だけではいけないと思って誘わないようにし

ている。私の友だちはみんな一風変わっていて，喜怒哀楽が激しい。機嫌の悪いときは，友だちを見ればすぐわかる。そういう時は話さないようにしている。
高校に来て，知らない人と知り合うようになってからは表だって争いごとをしないようにしている。ガーガー言い合うグループを見て，ああいうのはうるさいだけだと思うし，あまり自分の意見は言わないようにしている。言いたいことを言わないで気まずくなることはある。
みんな，友だちに対して思いをぶつけたいけどそれができなくて迷っているところがあると思う。
〈場面面接〉
「自分なりにやってるつもりだけど，どこがいけないのか具体的に言って欲しい」と言うと思う。この人(C)は，口だけタイプかなって思う。私ならこの後は，あまり近づかないようにする。

（自由面接）面接者が言葉を挟む間がないほど，蕩々と自分の考えを語っていた。もともとは，はっきりものを言う方だったが高校に入ってからは「表だって争いごとをしないようにしている」と言う。「自分の価値観だけじゃいけない」と話し，誰でも「自分の気持ちを友だちにぶつけたいと思っても，それができなくて迷っているところがあると思う」と熱く語る姿が印象的であった。友だちは，「教養のある人」「自分の意見を持ってる人がいい」「他人の立場に立って考えられることが人間として大事だろうって思います」とはっきりとした口調で語っていた。

言葉自体は模範的で，抑制的なところはなく，どちらかというと自分の考えをまくしたてるような印象が残った。語られる言葉と，他者を距離を置いて観察し，やや見下しているような話し方との間にギャップが感じられた。本当は言いたいことがたくさんあるが，めんどうなことを避けるためにそれをなるべく抑えようとしている様子がうかがわれた。

（場面面接）場面を見てすぐに，「私なら，自分はきちんと自分なりにやってるつもりだけど，どこがいけないのか具体的に言って欲しいと言う」と面接者が質問する前にそれを察して答えていた。そして，その言葉は，全被験者の中で，最も自分の気持ちをはっきり表しながら，なおかつ相手の意見にも耳を傾けようとする意図を持った表現と言える。しかし，その後の自分の行動としては，その相手には「近づかないようにする」と述べ，そうした率直な発言によって歩み寄っていこうとするのではなく，実際にはさっと身を引く行動を選択していた。適切な自己表現のレパートリーを持ちながらも，心理的には相手と分かりあえるというような信頼感や自信は持っていない様子がうかがわれた。

（教師面接）担任からは，まず初めに「ちょっと変わった子」という言葉が語られた。「幼児のようにちょっと意に沿わないことがあるとわっと泣く」など，学校生活の中でまわりがびっくりするような行動がときどき見られるという。面接における模範的で大人びた言葉とは大きく異なり，そういう反面があるということに驚かされた。しかし，教師自身も彼女が来訪者に対して冷静で完璧な会話をしている様子に驚いたことが語られ，幼さとその反面での相手の感情を察知する鋭さが裏表をなしているように思われた。はっきりした自分の考えや意見を持ちながらも面接

で語られたようになるべくそれを抑え，表わさないようにしようとしていることがこうした極端な行動の背景にあるのではないかと思われた。

類型３の特徴

以上，被験者Ｉ～Ｍの面接結果から，類型３の特徴として次の点があげられる。

・余計なことに口を出さず，友だちを傷つけないようにすることが友だちとうまくやっていく上で大切なこととされている。

・自分の感情を適切に言葉で表すことができず，他者への怒りや不満をためてしまったり，攻撃してしまった経験が語られ，他者への不信感を強く持っている様子がうかがえる。

・何かを友だちから言われることが攻撃や非難として捉えられ，受けとめる余裕を持てずに反射的に応答しまうところが見られる。

(3)類型４（HL群）

「自己表明」上位群，「他者の表明を望む気持ち」下位群，被験者は，Ｎ～Ｐの３名。

１）被験者Ｎ（中２男子）

〈自由面接〉

友だちは，そんなに仲が良くなくても楽しかったり優しかったりしたら誰でもいい。

友だちでいるには自分の意見とかを出さずに，相手の言うことについていくことが大事だと思う。

でも，僕はどちらかとかいうと100％自分から言うほう。自分が一番はっきり言うほうだから，向こうから言われることはあまりない。自分がやりたくない時は100％断る。相手の意見が自分に合わないことがあったら，極力自分を抑えて合わせようとはするけど，そういうのは好きじゃなくて自分で決めたいほう。結構トラブルがあったけど，こっちから謝ったりはしない。向こうが謝ってくる。僕は，結構，悪口を言ったりする。気にする奴もいるけどそういう奴とは喋らないようにしてる。僕は，どこのグループにも入らずに，中立っていうかそんな感じで色々な友だちとうまくやってる。そのグループと関係が悪くなったら，また他へ行くっていう感じでやってる。別にこの人じゃないと困るなんていうのはない。

〈場面面接〉

「うるさいんだよ」って思う。「いちいち指図するなよ」っていう感じ。早く言えば「こなせばいいんだろう」「いちいち俺に言うなよ」っていう感じ。この人(C)は，俺みたいな性格なんじゃないかな。Ａはいちいち張り合うのはめんどうだから「わかった」って言うかな。素直って言うんじゃなくて，相手にしないっていう感じで。自分みたいに口の立つ人だったら「うるさいな」って相手を負かすくらいに言う。２人の関係は，この後次第だけどまあ最後までダメってこともないし，そこのグループでちょっと居辛くなったら他のグループに移ればいい。

（自由面接）面接を頼まれたとき，「何か悪いことしたかなと思った」と言い，質問に対しては，迷ったりする様子もなく，淡々と答えていた。友人関係については「この人じゃなきゃ困るとい

うのはない」「そのグループに居辛くなったら，他のグループに移る。そこでうまく行かなかったらまた他に行くっていう感じでやってる」と語り，グループにくっついて行動するというよりは一匹狼的に自由気ままにやりたいという思いを持っているようであった。

また，友だちでいるには「自分の意見を出さずに相手の意見についていくことが大事」と思いながらも，相手に合わせるのは好きではなく，「僕は結構悪口を言うけどそういうことを気にする奴とはつき合わない」「こっちからは謝らない。大抵向こうが謝ってくる」と話していた。自分の思い通りにしようとする様子がうかがわれ，相手の気持ちがどうかといったことにほとんど関心を持っていないようであった。

（場面面接）主人公の気持ちを問うと，「うるさいんだよ」「いちいち指図するなよ」とかなり語気の荒い言葉が間髪を入れずに返された。「指図してきた」相手については，「俺みたいな性格」と笑って答え，主人公は「わかった」と言うかもしれないが自分だったら「うるさいな」と「相手を負かすくらいに言う」と話していた。自由面接と同様に，この場面面接からも勝つか負けるかの次元で自己表明が行われているように感じられた。

（教師面接）なし

2）被験者Oの特徴（高2男子）

〈自由面接〉
自分にとって大事な友だちは，困った時に助けてくれる人。人に嘘をつかないこと，友だちの意見を尊重することが友だちとしてやっていく上で大切だと思う。
言い過ぎてしまうことはよくある。いつもある。腹が立った時は，あまり表に出さないようにして我慢する。時間が経ったら忘れてくるから時間にまかせる。まわりが自分の意見と違うと思う時もあるけど，どうでもよいことは言わない。結構はっきり言う人がいるけど，別に言う人は言うんだなっていう感じで別に構わない。
〈場面面接〉
嫌な思いがしたと思う。そういうふうに見られた自分に対して嫌になると思う。
この相手はあまり他人のことを思ってない人だと思う。
「やってるじゃないか」って言って別に自分のやってることをそのままやり続ければいい。別にこういうことがあっても普通。少しは嫌な気持ちになるかもしれないけど。

（自由面接）体格ががっしりとし，落ち着いた雰囲気の高校生であった。友だちとしてやっていく上で大切なこととして，「嘘をつかないこと」「友だちの意見を尊重すること」と話していた。友だちの意見を尊重しようと思っていることは，質問紙の結果，すなわち，他者の表明を望む気持ちの低さとは矛盾するように思われた。しかし，後の「結構はっきり言う人はいるけど別に言う人は言うんだなって，別に構わない」という言葉を考え併せると，「尊重」するというのは，「相手の意見も認める，拒否はしない」いう意味であることがうかがわれる。拒否しないという

ことと積極的に望むこととは意味が異なり，そのために他者の表明を望む気持ちが高くはなかったのではないかと考えられる。また，友だちに対して言い過ぎてしまうことがよくあり，「腹が立ったとき，あまり表に出さないようにして我慢する」と話していた。言い過ぎてしまう自分をよく知っていて，何とかそれを抑えるように努力しようとしている様子がうかがわれた。

その他，面接では，寮に入ることやクラブを辞めることを決めたときもかなり悩みながらも，自分だけで決断したことが語られた。強い意志を持っていると思われたが，その一方で親が入寮以来一度も電話をしてきてくれないことを話した時，とても寂しそうな表情をしていたのが印象的であった。誰にも頼らずに一人でやらねばと頑張っている姿が垣間見られた。

（場面面接）仕事をしていないと相手に思われたことについて「自分に対して嫌になる」と言い，相手に対してどうこうというのではなく，自分への批判を語っていた。こうした応答は被験者の中で彼だけであり，自分自身を見るまなざしの強さが感じられた。どう応答するかについては，「やってるじゃないかと言って別に気にしないで自分の仕事を続ける」と述べ，その後の２人の関係についても「別にこういうことがあっても普通」と話していた。他者を気にしたり，こだわったりせず，自分の思うとおりに行動すればいいという気持ちを持っていると思われた。

（教師面接）担任はＯについて「学生としては申し分のないバランスのとれた子」「自分で考えて決めて，別にひとりよがりではなくて，まわりへの配慮というものもできる」と話していた。独立心を持ち，他者に必要以上に振り回されない学校での様子がうかがわれた。

３）被験者Ｐの特徴（中２男子）

〈自由面接〉
友だちは，自分の気持ちを考えてくれる人がいい。それから正直な人。はっきり言われたりするの好きじゃないからなるべく相手を傷つけないように気を付ける。友だちと２人両方が別々なことでもいいからしたいことをしていられる時が一番楽しい。
トラブル？すごく怒って全然考えずに言いたいことをばんばん言った時があった。結局仲直りはしたけどそういうのはあまり好きじゃない。考え方や意見が違った時は，自分の意見も言うけど２人で決着がつかない時は他の人に言って貰ったりする。そんなに折れる方ではない。
〈場面面接〉
自分はちゃんとやってるのに言われるのは嫌な気持ちがしたと思う。
この人はそんなにちゃんとやってないのに人にばっかり「やれ」って言うような感じの人に思える。もっとまじめにやるようにして，「おまえもちゃんとやれよ」って言う。最初のうちは喧嘩になると思うけど，そのうち仲直りすると思う。

（自由面接）質問に対してぼそっぼそっと言葉少なに話していた。「友だちは自分の気持ちを考えてくれる人がいい」，「はっきり言われたりするのは好きじゃないから自分もなるべく相手を傷つけないようにしている」と言い，自分のことを気遣ってくれる友だちを求めている様子がうか

がわれた。また，「両方が別々なことでいいから，したいことをしている時が一番楽しい」という言葉もあり，他者に傷つけられたり，踏み込まれたりすることのない関係の中で自分のしたいように過ごすことがPにとって心地よい状況のようであった。こうした点は他者の率直な表明を望む気持ちの少なさと関わっているのではないかと思われる。また，友だちとばんばん言い合った経験を持ち，そういうことは好きではないと語りながらも，「そんなに折れる方ではなく」，ある程度嫌なことは嫌と言う様子も見られる。

（場面面接）相手に対して「ちゃんとやってない人」という否定的な捉え方をし，「おまえもちゃんとやれよ」というやや対抗的な表現で応答していた。しかし，「もっとまじめにやるようにして」と自分を振り返る視点もあり，強い怒りや不満はそれほど持っていないと思われた。また，２人の関係については，「最初は喧嘩になると思うけど，そのうち仲直りする」と予測し，ある程度のもめごとは覚悟しながら，やがては解決していくという見方をしていた。

（教師面接）担任はPについて「みんなと騒ぐことはなく，広くは付き合わない。寂しい印象がある。仲間の中に割り込んでいくことができない感じの子」と語っていた。あまり人と積極的に関わっていくことをしない，もしくはできない様子が見受けられ，とくに親密な感情をやりとりすることは難しいように思われた。

類型４の特徴

類型４の３人の被験者は性格的なタイプとしてはかなり異なっていたが，他者との関わりという視点から見ると以下のような特徴が認められた。

・他者からの評価や他者の気持ちにあまり関心を持っていない。

・自分は自分という思いが強い。

・自己表明がお互いにわかり合おうためというとよりは，どちらかと言えば自分の意志を通すためのものとして行われている。

考　察

まず，各類型の特徴を自由面接，場面面接別にまとめ，次に，それらの特徴を類型間で比較し，「自己表明」および「他者の表明を望む気持ち」に関わる心理的要因についての仮説を提示する。

１．各類型の特徴

林（1987）の探索的研究方法を参考に，逐語録およびテープをもとにデータとの対話を何度も繰り返し，各々の類型に共通してみられる自己表現のあり方とその背景にある感情や考えについて整理した結果，各類型では以下のような特徴が認められた。

(1)自由面接から

１）類型１（HH：両高群）の特徴

最も特徴的であったのは，友人関係において大切なこととして，率直に自己表明することが共

通してあげられていたことである。悪いことは悪いと忠告できる(B)，自分の意見をはっきり言ってそれでもうまくやっていく(E)など，自己表明することへの肯定的な価値感が見られる。また，「自己表明することによってお互いに見つけ合いたい」(C)という思いが自己表明と他者の表明を望む気持ちを共に支えていると考えられた。

そのような友人関係には当然様々な葛藤が生じることが予想されるが，それに対しては根に持たない(A)，小さなことを気にしない(E)など，いつまでも対立を引きずらないあっさりした様子が見られた。意見や考えが違うことを当然あり得ることとして受けとめ，たとえぶつかっても仲直りし，分かりあえた経験を持っていることがこの類型の大きな特徴と言える。

2）類型2（LH：望む気持ち優位群）の特徴

この類型の3人には，自分の世界をしっかり持ち，いったん離れて冷静に物事を見る視点が見られた。こうした熟慮性は他者の表明を望む気持ちの高さと関連する心理的側面の一つと考えられる。友人関係については，共通して，自分の価値観と合う友だちを持ち，その中では丁寧に本心を言い合い，違いをも受けとめあえる関係を築いていた。その一方で，普通のクラスの人にはなかなかうまく自分の気持ちが言えずにやや距離を置いていた。自己表明下位群ではあるが，自己表明ができないというよりも，自己表明するかどうかを相手や状況によって慎重に選択していると考えられた。

3）類型3（LL：両低群）の特徴

まず，補助項目の面接を頼まれた感想について，「自分は変わっているのかなと思った」「私は少し変なのかな」などという言葉が共通して語られ，どこか自分に対する自信のなさが感じられた。友人関係において大切なこととしては，傷つけない(I)，余計なことに口を出さない(K)などが語られ，傷つけ，傷つけられることを極力避けようとしている様子がうかがわれた。その背景には，言い返せずにむかついて終わることが多かった経験(I)や親しい友だちはいない(J)といった孤独感が見受けられた。

自分の気持ちや考えを受けとめてもらえた経験が少ないこと，自分の気持ちをうまく伝えるスキルを獲得していないことがこの類型の特徴としてあげられ，それがまた，他者との関係を悪化させるという悪循環を引き起こしているのではないかと考えられる。やや攻撃的な言葉が語られ，その背景には他者への不満や不信があるように感じられた。

4）類型4（HL：表明優位群）の特徴

類型4（HL）の3人の特徴は，やや異なり，特に友人関係における葛藤への対処の仕方は3人3様であった。例えば，Nでは，相手に合わせず，100％自分の思いを通そうとする攻撃的，一方的な様子が見られたが，残りの2人にはそうした特徴は認められなかった。

しかし，共通点も見られ，あまり他者のことを気にせず，人は人，自分は自分という気持ちが強いことがこの類型の特徴としてあげられる。自己表明はするものの，その背景には類型1

（HH）のように，相手と深く関わり，分かりあいという気持ちは見られず，どちらかと言えば自分の行動を邪魔されないためのものであることが推察された。「自己表明」の高さと「他者の表明を望む気持ち」の低さは，こうした独自性の高さや他者への関心の少なさと関連しているのではないかと考えられる。

(2)場面面接から

場面面接の結果を整理したものをTable4に示す。この場面は，相手の言葉をどのように受け取るかが鍵となり，いったん自分を見つめ直す視点があるかどうかで応答が大きく2つに分かれた。こうした内省的な視点が見られたのは，類型1（HH）の4人と類型2（LH）1人だけであった。また，状況によって回答を場合分けしていたのも類型1（HH）と類型2（LH）の各2名で，類型3（LL）や類型4（HL）の被験者ではこうした特徴は見られなかった。類型1と類型2は，「他者の表明を望む気持ち」の高さにおいて共通しており，その背景には，いったん他者の言葉を受けとめ，自分のことや状況を省みる態度が関わっていることが示唆された。

また，相手に対する攻撃的な言葉が類型4（HL）の2人と類型3の1人に見られ，さらに類型3（LL）の2人では，反感を持ちながらも何も言わずに無視するといった行動が選択されていた。これより，「他者の表明を望む気持ち」の低さの背景に相手への攻撃的な感情が関わり，それが直接自己表明として表される場合と，関わりを避ける場合とに分かれることが示唆された。

2．自己表現のあり方に関わる心理的要因についての仮説の抽出

上で示した4つの類型の特徴を比較検討し，「自己表明」および「他者の表明を望む気持ち」の2側面からみた自己表現のあり方に関わる心理的要因についての仮説的見通しを提示する。

(1) 類型間の比較

まず，類型抽出の基準となった得点分布において対照的な類型である類型1（HH）と類型3（LL），類型2（LH）と類型4（HL）の比較を行い，さらにその他の類型間についても検討を加える。

1）類型1（HH）と類型3（LL）の比較から

類型1と類型3を比べると，自己表明することへの価値感に大きな違いがみられた。類型1では，率直に自己表明することが友だちとつきあう上で大切なこととして捉えられていたのに対して，類型3では，なるべく傷つけないように自分の気持ちや考えを抑えることが大切なこととされていた。また，こうした価値感には，当然ながら，それまでの友人関係における経験が関わり，類型1では友だちとぶつかっても仲良くやってこられたことやより深く分かり合えたことが語られていたのに対して，類型3ではうまく自分の気持ちを言えなかった悔しさや言い過ぎて気まずくなった思いが語られていた。自分の率直な表明を受けとめてもらえた体験，それに伴う友人への信頼感がこの2つの類型では大きく異なっていると言える。

これらのことから，自分の気持ちや考えを率直に伝え合うことが友人との関係において大切な

Table 4　場面面接のまとめ

1〈主人公の気持ち〉

類型1（HH）	類型2（LH）	類型3（LL）	類型4（HL）
一瞬腹が立つ やっぱり腹が立つ 全てを否定された様に感じる 嫌だなって思う	何でそんなふうに言われるんだろう 不思議な気持ち 何で分かってくれないんだろう ちょっと腹が立つ 俺のことを何も知らないでっていう感じ	むかつく 突っ込まれて腹が立つ やかましいな 注意する暇あれば自分がやれ 心外だなって思う	うるさいんだよ いちいち指図するなよっていう感じ 自分に対して嫌になる 嫌な気持ちがする

2〈応答の分類〉

	内省的視点あり			内省的視点なし		
表明のタイプ	反論	限界の表明 自分の行動の説明	納得した従順	反射的な攻撃	自分の行動の主張	非言語的攻撃 または対立回避
理由	（相手がちゃんとやっていない時）	（自分のことを振り返りやっていると思う時）	（相手がきちんとやっていると思う時） （自分のことを振り返りやってないと思う時）			
言動	「あなたこそやれば？」 「自分がちゃんとやってよ」 「そっちこそやれよ」	「これ以上はできない」 「自分なりに精一杯やってる」 「きちんとやってるよ」	「相手の意見を聞く」 「はい」 「とりあえず従う」	「うるさいな」 「おまえこそやれ」 「めちゃくちゃ言い返す」	「やってるよ」 「やってるじゃないか」	無視する 「はいはい」 「はーい」
被験者	C(1)　F(1)	B(1)　C(1)　D(1)	A(1)　B(1)　F(2)	H(2)　J(3)　N(4) P(4)	E(1)　G(2)　H(2) I(3)　O(4)	G(2)　K(3)　L(3)

注）(1)〜(4)は類型ナンバー，A〜Pは被験者名，下線は相手との仲の良さによって場合分けされたことを示す

ことだという自己表明に対する価値感と，友人が自分の気持ちや考えを受けとめてくれるという友人への信頼感が「自己表明」と「他者の表明を望む気持ち」の2側面に共に関わっていることが推測される。

2）類型2（LH）と類型4（HL）の比較から

類型2では自己表明する際に他者の気持ちや状況を考慮する様子が見られたが，類型4ではそのような言及はなく，他者がどうかということにあまり関心がみられなかった。このことは，他者への関心や配慮の高さが「自己表明」に抑制的に関わり，「他者の表明を望む気持ち」には促進的に関わることを示唆していると考えられる。

この他，類型2（LH）では熟慮的な自己表明がうかがわれたが，類型3（LL）では他者に対する不信感や攻撃的な感情が見られ，いったん自己表明すると過剰に攻撃してしまう様子がみられた。共に「自己表明」低位群であるこの2つの類型の違いから，熟慮性や攻撃性といった性格特性が「他者の表明を望む気持ち」に影響を及ぼしていることが推測される。また，4つの類型の中でも特に類型3では自分の感情や思いをうまく言葉にすることができない様子が見られ，言語化への自信も自己表現のあり方に関わる一つの要因と考えられる。

(2) 本調査で見い出された心理的要因

以上のことから，次の5つの要因が各類型の心理的背景の違いとしてあげられ，これらが「自己表明」と「他者の表明を望む気持ち」の2側面に深く関わっている可能性が示唆された。

・率直に自己表明し合うことが友人関係において大切であるという価値観
・率直な自己表明を受けとめてもらえた経験とそれに基づく友人への信頼感
・他者の気持ちや状況への配慮や内省的な視点
・熟慮性，攻撃性といった性格特性
・自分の気持ちや考えを言語化する自信

これらの心理的要因はあくまで探索的な検討を通して得られた仮説であり，今後，多くの被験者を対象に調査を行い，実証的に検討していく必要がある。また，本研究では面接対象者が少ないために類型によって性別や年齢に偏りがあった。中学生と高校生，男女で心理的背景は異なる可能性があり，今後は，そうした発達的な視点を含めて検討していく必要があると考えられる。

最後に，本調査の結果から，自己表現のあり方には性格やスキルの問題とともに，自己表明することへの価値感やこれまでの体験が大きな影響を及ぼしていることが示唆された。この点については，青年への自己表現援助のあり方において十分考慮すべきことと思われる。また，4つの類型の内，類型3のLL群では，うまく表現できない不満を持ち，突然「キレて」しまうなど，自己表明のやりとりにおいてかなり複雑な心理的問題を持っていることが示唆された。このような受動的攻撃性（Selman, Beardslee, Shults, Krupa, & Podorefsky, 1986）とも言える特徴を有する青年に対しては，学校現場においても援助的な関わりを積極的に行い，自分の気持ち

や考えを受けとめてもらえる体験や自分の気持ちを適切に言葉で表すスキルを学ぶ場を提供していく必要があると考えられる。

引用文献

Adalbjarnardottir, S., & Selman, R. L. 1989　How children propose to deal with the criticism of their teachers and classmates. *Child Development*, **60**, 539−550.

福富護　1997　思春期が人生の中でもつ意味　児童心理：2月号臨時増刊，3－12. 金子書房

林　もも子　1987　探索的研究方法：多数事例報告データによる仮説探索　人間性心理学研究，**5**，44−60.

平石賢二・桐山雅子　1995　癒す力としての教育力　祖父江孝男・梶田正己（編著）日本の教育力　金子書房 Pp.100−125

磯貝芳郎　1992　今ふうの友だちづきあい—進行する人間関係の稀薄化　磯貝芳郎（編）　上手な自己表現　有斐閣選書 Pp.1−23.

Lea, M. 1989 Factors underlying friendship : an analysis of responses on the acquintance description form in relation to Wright's friendship model. *Journal of Social and Personal Relationships*, **6**, 275−292.

中澤　潤　2000　調査的面接法　保坂　亨・中澤　潤・大野木裕明（編）　心理学マニュアル面接法　北大路書房　Pp.92−104.

澤田英三・南　博文　2001　質的調査—観察・面接・フィールドワーク　南風原朝和・市川伸一・下山晴彦（編）　心理学研究法入門　東京大学出版会　Pp.19−62.

Selman, R.L., Beardslee, W., Schults, L., Krupa, M. & Podorefsky, D.(1986). Assessing adolescent interpersonal negotiation strate−gies : Toward the integration of structual and functional models. *Developmental Psychology*, **22**, 450−459.

柴橋祐子　1998　思春期の友人関係におけるアサーション能力育成の意義と主張性尺度研究の課題　カウンセリング研究，**31**, 19−26.

柴橋祐子　2001　青年期の友人関係における自己表明と他者の表明を望む気持ち　発達心理学研究，**12**, 123−134.